
色の無い世界

藤井秀央

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色の無い世界

【Nコード】

N7929E

【作者名】

藤井秀央

【あらすじ】

説明文です。皆さんも学生の頃、国語の授業で、いくつも読んだと思います。そのようなイメージで読んで頂けると嬉しいです。

色とはなんだろうか？

この世には、色が満ち溢れている。赤、青、緑……。自分の周りを見渡して欲しい。そこには、どんな色があるだろうか？ どんな色だろうと、必ず一色はあるはずだ。では、題名にある、『色の無い世界』などあるのだろうか。

私が中学生の頃の話である。HRの時間に、廊下に掲示する物を書いていた。すると、担任がこんなことを言った。

「掲示するんだから、色とかつけろよ。」その言葉を聞いた私は、当たり前じゃないか、と思いつつ、それを完成させた。しかし、出来上がった掲示物を担任に見せると、

「色がついてないじゃないか。ちゃんと作れ。」と言われてしまった。その理由は明確である。私は、その掲示物を、黒いペンを使って書いた。白い紙に、黒いペンで書いたのだから、そこには二色の色が存在する。確かに色は存在するが、それは、担任にとっては、色と呼べる物ではなかったのだ。そこには、私と担任の間に、意識の違いがあったのだ。では、色とはなんだろうか？ 次に、その事について考えてみよう。

色は、可視光線の組成の差によって、質の差が認められる視覚である色覚、及び、色覚を起こす刺激である色刺激を指す。視覚を通して得られる感覚の一つであり、形状や距離のように、物理的な性質ではない。物体に入射する何等かの波長の光が、観測者に向かつて反射する際に、その物体に応じた波長のみが反射され、それ以外は吸収される、という現象が起こる。観測者には、反射された光だけが届くため、その波長に基づき判断される色が、その物体の色となる。

つまり、光や物体そのものには、色は無く、人間の器官で造りだされた物が、私たちが普段目にする、色になるのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7929e/>

色の無い世界

2010年11月12日07時42分発行